

兒童遊園に欲しい植物

日比谷公園 末田 ます

子供といふものは何でも知りたがり、きいたがり又さわ

りたがるものである。動物も植物も礦物も美術品も機械も、目に觸れるものゝ、あらゆる總てについて少しでも多く知らねば氣がすまない様である。此點大人の専門的の仕事にのみ汲々として少しの餘裕もない有様は聊か恥かしい氣がする。此旺盛な智識慾を十分満足せしめるために兒童

遊園などには餘地のめる限り出来るだけ爲になる様なものを用意して——經費の關係もあるが許される範圍内に於てそれ相當のものを植えて——知らずくの中にその名稱とか用途とか性狀などを覚え込ませておくといふ事は自然に對する趣味的情操教育上からも又小學校なり中等學校なりの教授課程に於いての基礎となり補助となるのである。又そこで接するものゝ中から特に自分の興味あるものを見出し將來專攻すべき部門を無意識の中にきめるよすがとなる

こともあらうと思はれる。

俗に子供は風の子といふ。然し本來は土の子と云ふべきであらう。土こそ我々の本當になつかしい父であり母でありふるさとである。我々はその故郷にたちかへり、土の香りに親しむことによつて、最も純な本來の自分を顧みることが出来る。

兒童遊園内には運動器具は別として前にも述べた様にとの設備を望ましいのであるが、夫等は暫くおき先づこの土にしたしませる意味に於て自然の環境に十分接せしめる爲に子供の親しみ易い覚え易い様な又將來の參考ともなる各種の樹木や草花を是非植付けておき度いものである。

東京市の各公園兒童遊園にも單に日蔭用として、柳、梧桐、銀杏、プラタナス等の樹木を、一、二種植えてあるのみで未だ此計畫が實行せられてゐないが、樹木は經費等の

關係上直ぐには各種のものを採て揃へられないとしても、草花などは子供自身の手によつて小さい花壇を造り少し宛

本誌七月號のルート・ヴァイランド博士の文中にも子供を園藝に親しませるといふ事は色々の意味に於て最も必要な保育の一つとして力説せられてゐる様である。

でも植えたり手入させたりしたいものだと思つてゐる。日比谷公園

幼稚園の恩人フレーベルは幼少の時身體虛弱のため父なる牧師は毎朝彼をつれて植木の手入をされたので健康になつたと云ふ逸話がある。

兒童遊園内にも數年前よりくす藤の廻りにチユリツプを植え周圍に

さてその用ふべき植物であるが是非次に擧げた様な何かのいはれあるものを選ぶのが一番興味深くもあり又最も効果的と思はれる。

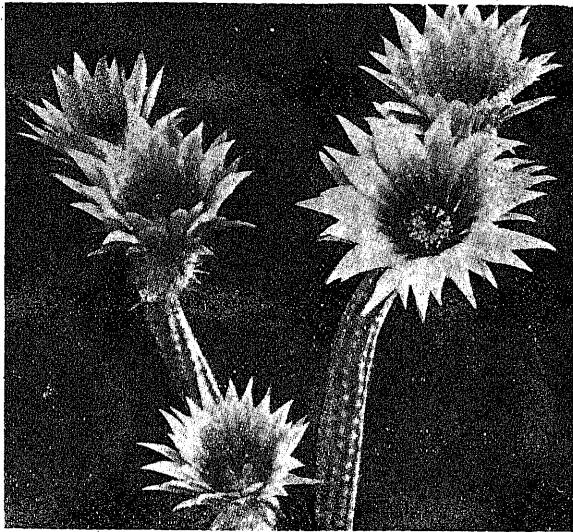
波竹をして注意を子供にさせた事を初めとし後四坪位の花壇を設けて春はチユリツプ秋は

我日本の國華として櫻と菊がある様に世界各國にもそれ〴〵國華が制定せられてゐる。英國に於けるバラ、佛國のアイリス等といふ風に各國に於て歴史的意義を持つもの、或は一般の嗜

ツレニア(夏スミレ)

各國の國華

及サルビア等を試みて一年毎に興味をそゝる



メキシコの國華 サボテン

様になり本夏などは官

舎に住む子供等は各自朝顔を自宅に植えてそれ〴〵成功し

た事を非常に喜で居ります。

我國華や、各國に渡らなくとも代表的な國のものだけでも是非揃へて説明の札をつけておき度いものである。

主なる國華とその簡単な性状、植付時期等は次の様なものである。

古クハ牡丹ヲ用ヒタレド一九二九年國民政府選定發表